



合祀風景



合祀墓内部

整えた。とはいえ、納骨堂に使用できるような地下室を持つメーカーは非常に少ない。以前より存知上げていた地下室メーカーの社長に話を持ち込み、製品化を実現した。今後の販売も見据え、地下室メーカーでは既に特許も申請済みである」という。

また、「納骨室の内装は全て宮堂大工が手掛けた。格天井や一つ一つ丁寧に造られた納骨棚は、魂の尊厳を一層感じることができる」と、細部に至るまで神経の行き届いた設計について自信をのぞかせる。

一方、緑豊かな奈良山霊苑内に設置されるため、自然との共生など、周辺環境とのバランスについてもさまざまな配慮がなされている。

例えば、奈良山霊苑の見どころの一つに、毎年春になると咲き誇る満開の桜がある。山下石材では、「この桜が毎年美しい姿を見せてくれるように」と、定期的に樹木医が治療や洗浄を行っている。「奈良山霊苑はもともと自然豊かな地域であり、周辺にはキツネや野うさぎなど、多く

の野生動物が生息している。そもそも人間も自然の一部であって、お互いが邪魔をせずに共生していくのは当然の事。いうなれば動物や樹木たちも、この奈良山霊苑の大切なスタッフだと考えている」と、山下氏は自然環境への心配りを語る。

さらに今年の春は地域住民と一緒に桜の植樹を行った。

「訪れる皆さまに長い期間桜を楽しんでいただけるよう、開花時期の異なる桜を選んで植樹した。何よりも、ご先祖さまの魂をお守りする場所が、いつも愛に満ち溢れた場所でありたいというのが私の願い。震災で甚大な被害を受けた福島県から届けていただいたシダレザクラも、来年は美しい花を咲かせ、多くの魂を慰めてくれることだろう」

販売受付開始から強い手ごたえ

現在、山下石材では、新聞折り込みチラシやフリーペーパーの広告、イベントの共催広告など、さまざまな形で告知を展開している。ホームページの制作や、毎月開催するお墓についての無料セミナー・相談会にも力を入れており、電話による問い合わせから成約に至るケースも多いという。

「販売受付を開始してすぐに数件のお申し込みをいただき、永代供養墓への強い手ごたえを感じている。とはいえ、永代供養料と聞くと、高額な出費をイメージされる方もまだまだ多い。奈良山霊苑供養塔の販売を通じ、これからも将来のお墓の継承に不安を抱えていらっしゃる方々が安心できるような、なるべく負担のかからない独自の料金体系を確立していきたい。そうして、一人でも多くの方がゆっくり眠ることのできる場所を提供していきたい」と山下氏は語る。

また、精魂込めた供養塔が多くの参拝者に愛される様子を目の当たりにした高橋氏も、設計・制作担当としての思いを語った。

「お墓の本質を伝えていくこと。いつ見ても飽きのこない仏塔をつくること。奈良山霊苑供養塔の設計・制作を通じ、我々の仕事はこれに尽きるのだということを改めて実感している」

(IDATEN 吉田麻樹子)